

主イエス一行はガリラヤの地での伝道を終えて、十字架にかかるためにエルサレムへの旅を続けました。私たちが現在学んでおりますルカによる福音書の部分は、そのエルサレム途上の出来事であります。

主イエス一行はエリコに到着しました。エリコからエルサレムは約30km、坂を上ればいよいよ目的地のエルサレムです。苦難の十字架がご自身を待っていることを主イエスはもちろん御存知でありましたから、エリコに到着したとき主イエスはどのようなお気持ちだったのでしょうか？。

ここにザアカイという徴税人がおりました。当時ユダヤの国はローマ帝国によって占領管理されており、ユダヤの人々はローマ帝国に税金を納めねばなりませんでした。ローマ帝国は徴税の役割をユダヤ人に持たせていました。そのため徴税人は一般の人から大変に嫌われていたのです。自分達の同胞でありながら魂を売り渡してしまい、ローマの手先となって税金を集め、自分達を苦しめているというわけです。徴税人達は大変苦しんでおりましたが、やがて自分達の役割を利用して、税金を集める際に、合わせて法外な手数料を取り、私腹を肥やすようになってしまったのです。そのため徴税人達はますます嫌われていってしまったのです。ザアカイが金持ちであったというのは、単に私腹を肥やそうとしたからだけではなくて、人々から嫌われたという孤独感がザアカイをそのような人間にしてしまったわけで、何とも皮肉なことであります。ザアカイはそうした徴税人の頭だったのです。

主イエスが来たと聞き、ザアカイは主イエスを見てみたいと思いましたが、背が低かったためかないませんでした。そこでザアカイは走って先回りし、いちじく桑の木に登りました。聖地には現在もこの木が残っているそうです。主イエスはザアカイを見て言われました。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」ザアカイは喜んで主イエスを迎えました。人々は「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった」と主イエスを非難しますが、これはさきほどの人々の心を現しているようです。ザアカイは主イエスと出会ったことによって心を改め、「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します」と今までと違った生き方をしていくことを決心したのでした。

本日はこの物語から二つのことを学んでみたいと思います。

まず、ザアカイはたまたま主イエスと出会ったのでこうした救いが与えられたように一見思えますが、実はそうではないのです。さきほどの「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」という言葉を原語で見ると、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、あなたの家に泊まらなければならない」となっています。主はたまたまザアカイの家の客になったのではなくて、救いを告げ知らせるために行かねばならなかったのです。主なる神の救いの業は、たまたま出会った人に、たまたま心を改めた人にもたらせられるのではなく、すべての人にもたらせられるものであること。主なる神が人類を救おうとされたのは、大きな強い決断であるのを知らされるのです。

第二に、ザアカイが金持ちであったのは、自分の弱さのために地位を利用して私腹を肥やしたためではありましたが、もう一つ、人々から嫌われ孤独に陥らされたためであったことも忘れてはなりません。人を追い詰めること、人を陥れること、人を孤独に追いやること、これらは私たちの社会で、当然のように行われていることです。しかしこうしたことが、人を罪に追いやり、主なる神から離れさせてしまうことにもなるのです。私たちの、隣人の交わりの中でこうしたことはないでしょうか。私たちが孤独に陥らせている存在はないでしょうか。悲しみ嘆いている声が聞こえることはないでしょうか。よく振り返ってみたいものであります。